

うまく花文字が読めるかな？



つくば市では市民参加によるまちづくりの一環として、花いっぱい運動を行っています。白井地区に住む鮭川和行さんは、つくば道を花いっぱいにして道行く人に楽しんでほしいと、この活動に参加しています。昨年、神郡地区をペンジーの花で飾って、多くの人に喜ばれました。今年は筑波山への登り口である白井地区を花でいっぱいすることにしました。準備したのは、日々草とベゴニアの花苗が1700株。

6月2日朝9時、初夏の陽ざしが照りつける中を白井地区の人たち10人ほどが集まって、鮭川さんの指導でプランターに色とりどりの苗を植え込んでいきます。今回は花で絵文字を作ることにも初めて挑戦しました。つくば道に沿った畑の中に、白のベゴニアで「ウェルカムつくば」という文字を作って、まわりには赤のベゴニアを文字が目立つように考えながら植えました。2時間近くかけてやっ

と完成しました。8月頃になると、赤いベゴニアのじゅうたんから、「ウェルカムつくば」の白い文字が浮き上がって美しい景色をつくり出す。ぜひ立ち止まって、ゆっくりとご覧ください。上野節子（小沢地区）

「曼珠沙華」公演に酔う

去る6月6日、六所の「美六山荘」において、新館落成を記念し、国内公演の他、イタリア、ブラジル等海外公演もおこなっている「曼珠沙華（国際文化交流劇団）」の公演と、海外演奏から帰国したピアノスト、後藤泉さんの演奏が行われた。200人を超える観客は、舞いの美しさに酔って時を忘れた。また、緑の自然の空間にピアノの音色が響き、心が洗われるようだった。観客席やパーベキューの準備に早朝から集落の70名ほどが携わるなど、集落挙げてのイベントは、筑波山頂付近に二重の虹が出て天空からも祝福された。森田源美（六所地区）



幻想的な舞いに酔いしました

今年も開催、筑波山麓秋祭り

10月30日（土）～11月7日（日）筑波山麓秋祭り、本年は10月30日（土）から11月7日（日）の9日間

に決定しました。田井地区は、白井、立野、六所、神郡、館などが区ごとにイベントを実施。山麓ウォーキングやそば打ち体験、普門寺での瓦灯りのプロムナードなどこれまでの行事に加え、新たな企画が加わるとのこと、お楽しみに。また、自然生クラブでは「田井ミュージアム芸術祭」を開催。里山建築研究所の名物の甘酒「麓べえ」など独自イベントも行われます。わが「すそみろく」チームは昨年引き続き茶屋を出店。好評のふくれみかんクッキーやすそみ風鶏汁、焼き芋などを提供する予定です。そして、おじさんロックバンド「山麓オーケストラ」の演奏もますますパワーアップして登場！実りの秋が待ち遠しいですね。野末たく二（結エディット）



すそみろくチームの茶屋



山麓オーケストラの演奏

古墳群や機織り中かりの神社まですそみの「漆所」ってどんなところ？

筑波山の麓、すそみの二画に「漆所」という集落があります。この「うるしじょ」という集落名は、珍しいので、地名のいわれなど気になる場所です。漆所古墳群や機織りと縁の深い神社など、歴史探索の楽しい地域でもあります。この度、漆所集落の方々が山ひとつ越えた北条への山道整備を始めたのを機に、漆所とはどんなところなのか、探ってみました。



漆所は、戸数56戸。つくば道の出发点、北条の町とは城山を隔てた反対側に位置します。この一帯は谷津が入り組み、谷津を取り囲むようになっています。この丘に立って北側を望むと筑波山の二つの峰の美しい姿が望めます。ここに古墳を築いた古代の人々も、この筑波山の眺めにあこがれたのではとふと思えます（P3地図参照）。以下、漆所を、すそみの面々が地域の活動も踏まえレポートいたします。

●漆所おっこし

5月30日、漆所から北条まで抜ける古道の整備作業が行われました。地区の方々15名ほどが集まり、杉田進一区長の指揮のもと、缶拾い班と



女性陣は鎌を持って参加です



刈り払い機のおかげで仕事もはかどります

池から北条の寺院、無量院まで抜ける古道が姿を現しました。ここは御越と呼ばれ、30年くらい前までは生活にかかせない道でした。実際に歩いてみると、10分程度で北条の無量院に着きました。

「男でも、夜中にここを通るのは怖かったなあ」「熱を出した子どもをおぶって妻がここを通って、北条の医者まで行ったつけ」「ハツタケがたくさん生えていて、よく採ったもんだ」と、たくさんさんの思い出を語ってくれたのは杉田守さん。「沢の水があふれて寸断された道

編集を終えて.....古墳時代にさかのぼる歴史があるなんて、すごいですね！筑波山の眺めも美しい漆所地区です。復活した「漆所おっこし」ぜひ訪ねてくださいね。昨年復活した白滝道や、現在整備が進みつつある蚕影山の山道など、「すそみ」には魅力的な山道がたくさんあります。かつては生活の様々な面で使われていた山道の復活は、忙しい現代の清涼剤のように感じます。折々の活動を「すそみろく」で紹介しますので、ぜひ、応援してください。

すそみサポーター 敬称略

つくば市大貫	松崎とし
土浦市真鍋	もとはし京染店
那珂市	笹沼 誠
つくば市小沢	杉田慶也
つくば市小田	大曾根隆
つくば市上大島	吉原憲夫

他3名の方から協賛をいただいています

※協賛会員「すそみサポーター」募集中！ 103000円

デザイン：小沢陽子（漆所地区）



私たちが応援しています！

●漆所の歴史

古墳時代6世紀まで遡る事の出来る満面塚古墳や大塚古墳など数基が点在する漆所について郷土史研究家井坂敦實氏にうかがいました。

「漆所」という地名は『日本歴史地名大系茨城県の地名』（平凡社）に「古墳に漆を一千石埋めた所から地名が起ったとの伝承」とある。又漆の採れた所など様々な説はあるが、いずれも確証はない。「漆所」が文書に明確に出て来るのは、文禄5年（1576）佐竹藩御蔵江納帳に村石221石とある。元禄11年（1648）「漆所村差出帳」には264石・家数23戸・人数121人・田9町3反余。明治2年（1869）「漆所明細書

井坂先生（右）から古文書の説明を聞く

